

## EC(加ホﾟラチン+イトホﾟシトﾟ)【肺】療法

## 注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		アホシ静注+デホト注	副作用予防（吐き気）のお薬です。
2		加ホﾟラチン注	治療のためのお薬です。 1日目に約1時間かけて投与します
3		イトホﾟシトﾟ注	治療のためのお薬です。 1日目、2日目、3日目に1～2時間かけて投与します

## 投与スケジュール

薬品名	日数																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
加ホﾟラチン	↓																											
イトホﾟシトﾟ	↓	↓	↓																									

投与スケジュール(3～4週間ごとに投与します)

加ホﾟラチン：1日目に投与します。

イトホﾟシトﾟ：3日間続けて(1～3日目)投与します。

加ホ<sup>®</sup>プラチ<sup>®</sup>+イト<sup>®</sup>シ<sup>®</sup>療法【肺】

## よく起こる副作用

## ★悪心・嘔吐および食欲不振

**発生時期** 薬剤投与日～5日目まで

**症状** 食欲が落ちたり、においに敏感になったり、胃が重たく感じたりします。ときどき吐くこともあります。

**対処法** ○治療の前に吐き気止めの注射を行います。症状によっては吐き気止めの内服薬を服用することもあります。  
○脱水をおこさないように水はこまめにとるように心がけましょう。  
○吐き気があるときは無理して食べる必要はありません。口当たりのよいものを少量ずつとりましょう。  
○吐き気が強く食事できないときは、栄養や水分を点滴で補給することもあります。

## ★骨髄障害

**発生時期** 薬剤投与日から7～14日後に減少します。

**症状** 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球（細菌などから体を守る）、血小板（出血を止める）、赤血球（酸素を運ぶ）の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制（障害）といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

- 感染症：37.5℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など
- 貧血：疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など
- 出血：紫斑（原因不明のあざ）、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

**対処法** ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。  
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。  
○血が止まりにくくなることがありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。  
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

## ★脱毛

**発生時期** ○治療開始日から2～3週間後に始まりますが、治療が終われば必ず生えてきます。

**症状** ○徐々に抜け毛が多くなり、2ヶ月以内でほぼ抜けてしまいます。場合によりまつ毛や体毛も抜けることがあります。

**対処法** ○今のところ有効な防止策はありません。脱毛によるショックができるだけ少ないように髪を短くカットされておいてもよいでしょう。  
○市販のウィッグやバンダナ、帽子などで、おしゃれを楽しむ気持ちをお持ちいただけたらと思います。（ウィッグに関する資料については、看護師にご相談ください。）  
○実際に脱毛が始まったら、寝ている間に抜けた髪の毛が散らばらないようにキャップをかぶるなど工夫をしましょう。  
○化学療法中は頭皮も敏感になっていますので、シャンプーやブラッシングの回数を減らしたり、長時間のドライヤーは避けて下さい。

## 頻度は少ないが注意を要する副作用

## ★間質性肺炎

## ★間質性肺炎

**発生時期** 薬剤投与後数日～数週間

**症状** 発熱、から咳、呼吸困難(息苦しい)、頭痛、倦怠感などの風邪のような症状があらわれることがあります。

**対処法** ○起きる頻度はまれですが、症状の軽いうち(風邪のような症状)から治療する必要があります。

## ★その他

**症状** 腎障害、肝障害、血栓症

**対処法** ○必要に応じて対症療法を行います。

## その他の副作用

### ★

**症状** 倦怠感、口内炎、味覚障害など

**対処法** ○必要に応じて対症療法を行います。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

**副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。**

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院 (薬剤部)

